

研究デザイン

亀山市立白川小学校

亀山市教育大綱 基本方針 「未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現」

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1. 学校教育目標

であい、ふれあい、そして未来へ
「自分を発揮し、求め続ける白川っ子の育成」

〇めざす学校像 「一人ひとりの子どもが輝く学校」



白川小学校校舎

〇めざす子ども像

- (1) 思いやりのある子
- (2) 自分を発揮できる子
- (3) 自分の思いを追い求める子
- (4) 対話をとおして人とつながる子
- (5) 新しい時代に対応していける子



5・6年体験活動「炭作り」

2. 研究主題

「自ら学び、ともに伸びようとする子」
～自分の思いを豊かに表現する力の育成～

3. 研究主題設定の理由

(1) 児童の実態

本校は、児童数が48人で、そのうち小規模特認校制度を利用している児童は14人である。特認校制度により校区外からの児童が増えることで、交友関係が広がり、学び合いの活性化につながっている。全体として児童の数

は昨年度とほぼ同じであるが、2・3年と4・5年は複式学級となっている。

一年間を通じて、地域と密着した体験活動が多く、米づくりや炭焼きなどの体験や生活介護事業所「つくしの家」との交流などの社会福祉体験に取り組んでいる。そこには、保護者、地域の方々のたくさんの協力和子どもを地域で育てていこうとする風土があり、地域と学校とのつながりが強い。5年前からコミュニティ・スクールとなり、より一層地域とのつながりを強くしている。

小規模校であることを活かして縦割りでの班活動を多く設定し、全校児童が深く関わり合いながら学校生活を過ごしている。そのなかで、上級生が下級生と関わる機会が多く、活動をリードする姿も見られる。あたたかい雰囲気があり、上級生が下級生に優しくサポートできており、下級生はそういった経験をもとに、上級生になった時に下級生に自然と優しくできている。しかし、穏やかな関係を築く反面、お互いに切磋琢磨し、意欲の向上を図ったり、目標を目指したりしていく雰囲気は少ない。



体験活動「全校田植え」



運動会「表現運動」



(2)これまでの成果・課題

統一した授業展開(めあての提示、授業のふりかえり)を行うことで、子どもたちが授業に見通しをもつことができ、意欲的に授業に取り組むことができるようになってきた。また、体験活動を多く取り入れることで、異学年のなかまとふれあう機会が増えたり、地域の方から学ぶことが多かったりと本校の特色を活かすことができている。

全校集会などで発表する機会も多いため、人前で発言することには慣れてきている。しかし、声の大きさや表情、目線、伝えたいという思いなど、「伝える」ことに課題がある。また、少人数のため、多様な意見が出にくく、一部の固定化された児童の発表で授業がすすんでしまったり、同じ表現でしか自分の思いや考えを表現できない児童がいたりする。また、人間関係が固定化され、友だちに対して、遠慮や決めつけ等があるため、話し合いが活発にならないことが多い。



国語の学習

4. 研究主題について

前述した子どもの姿や課題から、学んだことを発揮する表現力、実践力を高めるため、引き続き、全教科・全領域で研修を進めていくこととする。さまざまな活動の中で、「対話」(*)を大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、自分で考えたことを積極的に表現し、友だちの考えや思いを聴き、共に伸びようとする子を育てていきたいと考える。学級、異学年のなかまなど子ども同士、または地域の人や保護者など多様な他者との協働的な学びを進めていく。

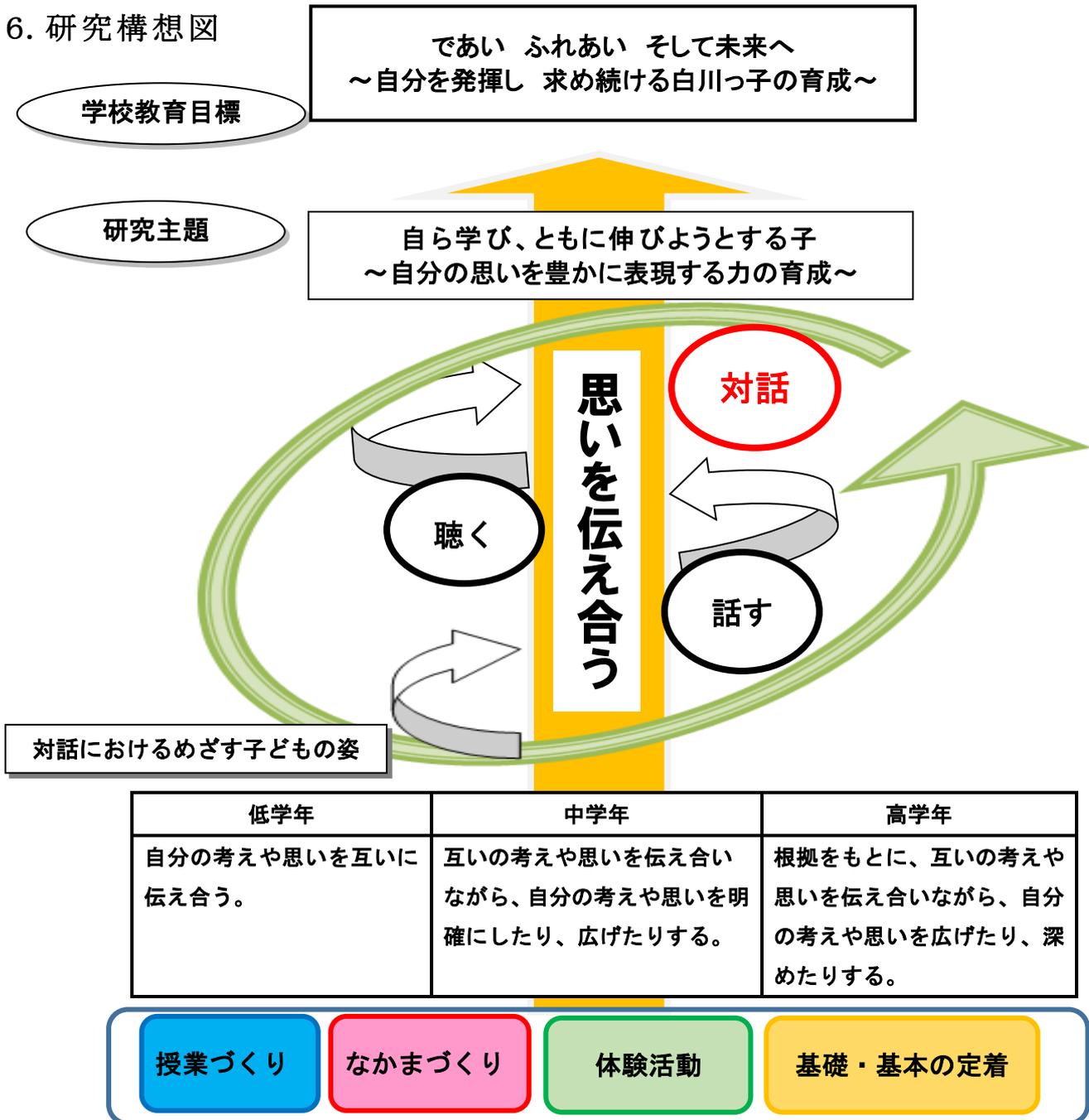
本年度も、サブテーマを「自分の思いを豊かに表現する力の育成」とし、発表力、語彙力や文章構成力の育成に力を入れていく。また、ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、相手に伝えることを意識して全校で取り組むことで、自分に自信をもって、発信することのできる子どもを育てていきたいと考える。

*「対話」・・・ペア、グループ学習や全体交流などの活動を通して、互いに自分の思いを伝え合い、学びを深める。

5. 研究領域

全教科・全領域

6. 研究構想図



7. 具体的な取り組み

(1) 「対話」を取り入れた授業づくり

- 各学年で「対話におけるめざす姿」を設定し、ペア・グループ学習を取り入れたり、ロイロノートなどのタブレット端末を活用したりしながら学びを深める。

(2) なかまづくり

- 人権教育の推進
 - ・人権カリキュラムに沿った、系統的な人権教育を実践する。
 - ・全校で人権集会を行い、なかまとともに人権感覚を養う。
- すみがくタイムの設定
 - ・人権、なかまづくりを意識した学習内容を取り入れた全校児童で行う授業を全教職員が交代で行う。

○なかまづくりレポート

- ・各学級の心にとめる子について、その子とまわりの子との関わりや関係をとらえ、誰もが安心して過ごせるための取り組みを考え交流し合う。(年間3回)
- ・学級満足度調査、人権アンケートなどを活用する。
- ・職員会議や校内支援委員会などで心にとめる子の様子を交流し合い、全教職員で情報を共有する。

○コミュニケーションスキルの習得

- ・各学級でソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、自分の思いの伝え方などを身に付けさせる。

(3) 体験活動

- 地域、保護者、つくしの家、安全の里とのつながりを大切にした体験活動を継続する。他の学習と関連付け、つける力を明らかにして取り組む。

<主な体験活動>

- 1・2年…地区たんけん、さつまいもづくり
- 3・4年…お年寄り訪問、花壇づくり、安全の里介護体験
- 5・6年…炭づくり、つくしの家福祉体験
- 全校…米作り、白川ふれあい集会、もちつき集会



1・2年体験活動「いもさし」

(4) 基礎・基本の定着

- 語彙力、表現力、文章構成力を発揮するための機会を設定する。
 - ・「聴く・話すの約束」をもとに、伝えるスキルを習得する。
 - ・国語科や短時間学習で国語辞典や「ことばの宝箱」などを活用し、多様な表現方法を学習する。
 - ・始業式、終業式で全員が各学期の目標やがんばったことなどを話す。
 - ・さまざまな行事の感想などで自分の思いを話す。
 - ・白川っ子タイム(児童集会)でスピーチタイムを設け、話す機会を増やす。



児童集会「白川っ子タイム」

- 短時間学習

朝の学習を曜日ごとに設定し、基礎・基本の定着を図る時間として確保する。

- 自主学習ノート

自主学習ノートを掲示物や通信などで発信・紹介し、内容や意欲の向上を図る。また、「自主学習の手引き」を配布して、各家庭での協力を仰ぐ。

- ワンダーコーナー

毎月、廊下に書籍や体験活動ができるコーナーを設け、児童の好奇心や意欲を引き出し、発展的な内容にふれる機会をつくる。

(5) 複式学級での授業の持ち方の研究

- 授業づくりの研究
- 図画工作、体育、道徳、家庭科、音楽、総合的な学習の時間のA、B案でのカリキュラムの見直し



(6) 校内研修会の充実

- 研究授業を一人一回行う。
- 積極的に研修会に参加し、還流報告により校内研修のさらなる充実を図る。
- OJT(オン・ジョブ・トレーニング)を随時行う。



「ワンダーコーナー」